

現代の人間像 －20世紀の哲学を中心に－

日時:水曜日 18:45～20:15

人間は、何を考えていても自分自身のこと、つまり人間の存在を思いめぐらし、おどろきと疑いの間に人生の意味を探っています。この問いを受け入れ、現代の哲学は、人間を根本問題とし、人間を成す諸特徴－自己と世界の関係、身体と精神、理性とその限界、幸福と死、自律と他者関係、心の内面と超越－を理解することにつとめています。本講義で、20世紀ドイツとフランスの主立った思想家の文章(和訳、プリント)を検討し、現象学・実存哲学・文化哲学・対話の思想などを手掛かりに、人間の本来の存在・可能性・課題を、多様な観点のもとで考察することによって、人間像の基礎づけを目指します。問題は明確に分かりやすく説明され、哲学や思想史についての知識は前提されません。

講義スケジュール

- 10月5日 キルケゴール:実存の不安と信の決断
- 10月12日 デイルタイ:精神の多様な生命と了解
- 10月19日 ベルクソン:進化における直感と愛
- 10月26日 フッサール:自我と現象
- 11月9日 シェーラー:人格と価値
- 11月16日 ブーバー:我と汝
- 11月30日 マルセル:忠実と神秘
- 12月7日 ハイデガー:死への先駆性と良心
- 12月14日 ヤスパース:限界状況と超越
- 12月21日 サルトル:自由と不条理
- 1月11日 ガダマー:芸術と歴史
- 1月18日 レヴィナス:他者と無限

参考書 : 『超越に貫かれた人間』(K. リーゼンフーバー著)創文社